

## 1 梨の生育状況等について

梨の結実は、いずれの品種もやや少ない～著しく少ない状況です。果実肥大は、7月15日の無作為調査結果では、「幸水」の横径が60.1mmと前年、平年よりも小さく（前年値66.6mm 平年値65.0mm）、大きさにばらつきが見られます。なお「幸水」では裂果が散見されます。

黒星病の発病率は低く、6月の調査から増加は認められませんが、新梢葉にも病斑が見られます。7月末頃まで「幸水」の果実に感染しやすい時期であることから、収穫前まで発生防止対策の実施が重要です。

害虫はシンクイムシ類のトラップへの誘殺数が平年より多く、幸水以降の品種についても果実への被害発生に注意が必要です。

### ☆重要☆

●収穫期間中の黒星病の発生を抑えるためには、収穫直前まで、発生した果実、葉の病斑を除去して、ほ場外に持ち出し、感染源の密度を低下させることが極めて重要です。

## 2 これからの防除について

☆秋型病斑葉の発生抑制のため、「幸水」収穫終了後の防除を実施して下さい。

回数	散布月日	薬剤名と濃度	収穫基準 (収穫前日数)	散布量	主な対象病害虫	防除実施日
16	7月26日～28日	オーソサイド水和剤 80 1,000倍 アグロスリン水和剤 2,000倍	3日 前日	300 リットル	黒星病、輪紋病 シンクイムシ類、ハマキムシ類、カメムシ類	
特散	7月31日～8月4日 <u>防除前に草刈りを!</u>	マイトコーネフロアブル 1,500倍	前日	<u>400</u> リットル	ハダニ類	
17	8月末頃 (「幸水」収穫終了後)	ナリア WDG 2,000倍	前日	300 リットル	黒星病	

※ナリアWDGは、全品種が防除対象となります。  
 ※防除日は、「幸水」の収穫状況を見極めて決定し、8月下旬頃にお知らせします

### 【注意事項】

- (1) これからの防除は、収穫期間近あるいは収穫期間中となるので農薬の使用基準（収穫前日数）に十分注意してください。「収穫前日」の薬剤の場合、散布後24時間以上あけて収穫し、周囲の収穫園にも気を配りましょう（収穫中の梨にかかった場合は、収穫は散布後24時間以降に実施してください）。
- (2) マイトコーネフロアブル散布後、再びハダニ類の発生が見られる場合は、コロマイト水和剤（2,000倍、収穫前日まで、400リットル/10a）を散布してください。
- (3) ハマキムシ類およびシンクイムシ類対策として、7月末頃にコンフューザーNを50本/10a追加設置してください。
- (4) 「幸水」以降の品種にシンクイムシ類の果実被害が多い園地では、17回目の防除にアグロスリン水和剤（2,000倍、収穫前日まで、年間3回まで）を加用してください。

## 3 除草剤の使用基準について

除草剤の使用に当たっては、下記の使用基準を遵守してください。

- (1) 収穫前日まで使用可能：バスタ液剤（年3回以内）、プリグロックスL（年5回以内）
- (2) 収穫7日前まで使用可能：ラウンドアップマックスロード、サンフーロン液剤、草枯らしMIC（合わせて年3回以内）

**非農耕地用の除草剤を梨園地内や畦畔等には絶対に使用しないでください。**